




# 内閣府青年国際交流事業


は、世界各国の青年との交流を通じて、相互理解と友好を深め、広い国際的視野

を養う機会を提供し、社会の様々な分野で活躍できる青年の育成を目指しています。

 …2国間交流のプログラム。訪問国へは航空機で向かいます。

 …複数の国の青年たちとの交流プログラム。訪問国へは船で向かいます。

 …ディスカッション・交流をすべて英語で行うプログラム。

 …関連分野における社会活動経験（3年以上）のある方が対象のプログラム。

## English

### 1 国際青年育成交流事業

カンボジア、ドミニカ共和国、ラトビアの各国にそれぞれ14人の日本青年を18日間派遣します。訪問国では、現地青年との双方の社会事情に関するディスカッション、日本文化の紹介、国際協力活動の体験、産業・文化・教育・環境・社会福祉等の関連施設訪問、ホームステイなどを行います。

また、帰国後は日本に招へいた外国青年と共に国際青年交流会議（2泊3日の合宿形式でのディスカッション）に参加します。

★事業実施期間の前後に参加必須の研修があります。事業日程他、詳細は裏面。



1 2 3 4 5 …18歳～30歳（S59.4.2～H9.4.1生まれ）の方が応募できます。※

6 …23歳～40歳（S49.4.2～H4.4.1生まれ）の方が応募できます。※ ※平成27年4月1日時点の年齢

### 2 日本・中国青年親善交流事業

日本・中国両国政府が共同して実施している事業で、中国に25人の日本青年を12日間派遣します。中国では、現地青年との双方の社会事情に関するディスカッション、文化・スポーツ交流、教育・文化・産業等の各種施設の訪問、ホームビジットなどを行います。

事業終了後に、日本に招へいた中国青年と交流する機会があります。

★事業実施期間の前後に参加必須の研修があります。事業日程他、詳細は裏面。



### 3 日本・韓国青年親善交流事業

日本・韓国両国政府が共同して実施している事業で、韓国に25人の日本青年を15日間派遣します。韓国では、現地青年との双方の社会事情に関するディスカッション、文化・スポーツ交流、産業・文化・教育・環境・社会福祉等の関連施設の訪問、ホームステイなどを行います。

事業終了後に、日本に招へいた韓国青年との合宿交流プログラム「日韓青年親善交流のつどい」に参加する機会があります。

★事業実施期間の前後に参加必須の研修があります。事業日程他、詳細は裏面。



## Experience

### 6 青年社会活動コアリーダー育成プログラム

高齢者関連、障害者関連、青少年関連分野の社会活動に携わる日本青年を、ドイツ（高齢者）、英国（障害者）、オーストリア（青少年）へ派遣し、各分野の社会活動で中心的担い手となる人材を育成します。訪問国では、関係機関や施設等の訪問、派遣分野の背景事情や社会活動に関する先進的な取り組みを学ぶほか、ホームステイ等による交流を行います。

★事業実施期間の前後に参加必須の研修があります。事業日程他、詳細は裏面。



### 4 「東南アジア青年の船」事業

ASEAN10か国の青年と、日本国内・船内・寄港地（ASEAN数か国）で共同生活をしながら、様々な交流活動を行います。

船内では、異文化理解、環境、教育等のテーマについての英語によるディスカッションをメインのプログラムとするほか、各国の社会事情の紹介、文化・スポーツ交流などを行います。訪問国では、その国の青年たちとの交流、ホームステイ、各種施設の訪問などを行います。

★事業実施期間の前後に参加必須の研修があります。事業日程他、詳細は裏面。



## Q&A

事業や試験について、よくある質問を集めました。より詳しく知りたい方は、内閣府ホームページ（<http://www.cao.go.jp/koryu/>）をご覧ください。

### ？ 求める人はどんな人？

内閣府青年国際交流事業の目的は「国際社会・地域社会で活躍する次世代リーダーの育成」です。国際的な視野を広げ、交流した各国の青年との国境を越えたつながりを持ち、これを活用して社会貢献活動をしたいという意欲のある青年を求めています。また、事業参加後の活動（事後活動）を重視しておりOB・OG組織（日本青年国際交流機構）の活動が活発であることが内閣府事業の特徴といえます。交流する国への興味はもちろんですが、事業参加後のアンケートでは「異文化への対応力」「主体性・積極性・チャレンジ精神」「国際的なネットワーク」「リーダーシップ」が得られたという声が多くあり、これらを高めたい、広げたいという方の応募をお待ちしています。

### ？ どのような場所でのどのような経験ができますか？

個人の旅行ではなかなか訪問が難しい施設の視察、現地の青年との交流やディスカッションなど、多様なプログラムがあります。特に、各国要人への表敬訪問は、日本代表として参加する国の事業ならではのプログラムです。各事業の詳細内容はホームページをご覧ください。

※平成26年度事業の様子はFacebook&Twitterでご覧いただけます→ [内閣府青年国際交流担当](#) @cao\_koryu

### ？ 「事後活動」とは？

事業に参加したあとのOB・OGとして社会に携わる活動のことを「事後活動」と呼んでいます。日本のOB・OG組織（日本青年国際交流機構）だけでなく、海外にも事後活動組織があり、そのネットワークを生かして、途上国の教育支援や被災地支援、外国青年の受入れ等さまざまな活動を行っています。詳しい活動内容は、日本青年国際交流機構のホームページ（<http://www.iyeo.or.jp/>）をご覧ください。事業参加の感想なども見ることが出来ます。

### ？ 事業実施期間前後の研修とは？

内閣府青年国際交流事業は、事業実施期間前後の研修が充実していることも特徴です。事業前の研修では、派遣先の情報や国際儀礼などを学び、ディスカッションや日本文化紹介等の準備を通して、参加者同士の団結を強めます。事業後の研修では、事業のまとめと、事業中の学びを生かした今後の活動計画について考えていきます。

### ？ 英語力はどれくらい必要ですか？

英語を必須とする事業では、実際に話したりディスカッションができる英語力が必要です。内閣府での第2次選考では英会話面接が課されます。しかし英語力のみで合否が決まるといわけではありません。プログラムに興味を持ち、参加したいという意欲のある方の応募をお待ちしています。

### ？ どんな人が参加していますか？

学生を始め、会社員、公務員、自営業者など多彩な人たちが、各々の経験や知識を生かしながら事業に参加しています。外国からの参加者も、多種多様なバックグラウンドを持つ人が多く、国の将来を担う仲間にも出会える事業です。

## 事業参加の流れ

応募～選考～事業参加～事業参加後までをまとめました。

### 応募▶▶中間選考

応募窓口は、各都道府県の青年国際交流主管課（室）及び全国的な組織を持つ青少年団体です。参加申込書・作文等を提出し、応募先の定める中間選考を受験します。※

内閣府と応募先それぞれの要項を確認して応募・受験してください。

※各都道府県の窓口・募集期間・中間選考日の一覧は裏面。

応募要領・参加申込書は内閣府ホームページからダウンロードできます。

### 第2次選考▶▶最終選考

中間選考を経て、内閣府へ推薦のあった候補者は、内閣府で行われる第2次選考へと進みます。

第2次選考を通過した候補者は、最終選考を兼ねた事前研修に参加し、事前研修を修了した候補者が、参加青年に決定します。

#### ●第2次選考日程・内容●(予定)

番号	事業名	開催地	内容
1	国際青年育成交流事業	(東京)H27.5.23	人物面接・英会話面接・教養試験
2 3	日本・中国青年親善交流事業 日本・韓国青年親善交流事業	(東京)H27.5.17	人物面接・教養試験
4	「東南アジア青年の船」事業	(東京)H27.6.6	人物面接・英会話面接・教養試験
5	次世代グローバルリーダー事業	(東京)H27.5.30または5.31 (大阪)H27.5.31	人物面接・英会話面接・教養試験
6	青年社会活動コアリーダー育成プログラム	(東京)H27.5.15または5.16	人物面接

## 事業参加



### 帰国後の活動

事業に参加した後は…

社会活動に取り組んでいる日本青年国際交流機構（内閣府の青年国際交流事業に参加した青年等が自主的に組織している事後活動組織）に入会して、そのネットワークを生かしながら様々な形で活動することが基本となります。

▶日本青年国際交流機構ホームページ <http://www.iyeo.or.jp/>